

平成 18 年度（第 29 回）校内放送指導者講座 参加報告

相模田名高等学校 住谷 秀俊

平成 18 年 12 月 26 日（火）27 日（水）の 2 日にわたり、千代田放送会館にて、標記の講座が開かれました。全国から 101 名の先生が参加されました。

講座ごとの概要

講座 1 顧問交流「放送部顧問として」

6 人から 8 人の班に分かれ意見交換を行い、最後にその内容を各班で発表しました。アナウンス・声・番組などの指導法、機材、昼の放送、顧問の役割などについて様々な意見が出ました。はっきりとした結論が打ち出されることはありませんでしたが、私個人としては他の先生の様々な取り組みが聞けて、とても有意義でした。

講座2 実践発表 講師 広島県立広島国泰寺高等学校 永尾 和子 先生

現在顧問をされている高校の放送部が、Nコン全国大会常連校になっていく過程を説明しながらの講義でした。この校内放送指導者講座に来て、番組、クラブの作り方を教わり、さらに自分達自身が活動を作り出しそれを記録していく事、社会の問題に関心を持つことが大事だと学んだこと。

また、番組作りの指導には生徒に全国大会を見せることが大事である。10 年前には「レベル違いすぎ」と言っていた生徒が、あるときから「同じ高校生ですよ」と言い始め、2002 年くらいからは作品を批判するまでになった。先輩が後輩を教えるというシステムが定着してきてから、作品が変わってきたそうです。

自分もできることからやっっていこうと感じました。

講座3 古典を読む

講師 アナウンサー・千葉市女性センター名誉館長 加賀美 幸子 先生

古典作品を朗読する事についてのお話でした。自分の心に合う所を選んで、シンプルに自分に近付けて読むことが大事である。現代語訳を読んで、その内容を理解した勢いで原文を読むとよく解かるそうです。

また、「枕草子」「源氏物語」などを実際に朗読してくださいました。

さらに朗読一般についての話もされました。言葉の意味や内容が分かるように読むのは当たり前、内容は同じでも感じ方は人によって違うはず、聞く人の

心を動かす事が出来るか、読み手の息遣い、余韻、読み取りの深さ、心の温かさの伝わる朗読してほしいとおっしゃっていました。

第4講座 「高校生とドラマ」

講師 日本放送作家協会元理事長 西澤 先生

「ハモニカで踊るいもむし」のお話を軽妙な語り口でお話くださりながら、ドラマとは何かということを解説くださいました。

ドラマ制作の際の媒体の選び方の重要性、ドキュメンタリーとドラマとの関係は本来水と油であること、制作場面で絶対ということばを使ってはいけない、というように、指導の中で必要な観点を明確に言語化していただきました。

また、高校生にわかるドラマという観点が必要だというお話もされました。

さらに特にラジオドラマに関して、耳で聞くことの大切さを訴えられました。

2日目は、別の研修に参加したため、不参加となりました。以下、実施された講座名を示します。

講座5. 「大会規定・著作権」

担当 神奈川県立大船高等学校 杉浦 敏昭 先生

千葉県立四街道高等学校 藤岡 孝夫 先生

講座6. 「アナー朗 審査講習」

「アナウンス・朗読の基本と実際の指導および審査の観点」

講師 NHK日本語センターエグゼクティブアナウンサー 榎 寿之 先生

講座7. 「番組制作について」

講師 NHK制作局チーフプロデューサー 池田 武 先生

講座8. 「番組制作審査講習」

講師 NHK制作局チーフプロデューサー 池田 武 先生